

5 本時 2組(9/14)

(1) 本時の目標

叙述に基づいて様子を想像し、スーホの気持ちを考えることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のねらいをつかみ、めあてや学習方法を確認する。	・前時までの学習内容を想起し、学習の見通しをもてるようにする。	
	馬頭琴を作ったりひいたりする、スーホの気持ちを考えよう。		
	2 どんな出来事があったのかを想像しながら音読する。 (121 ページ4行目～122 ページ)		
展開	3 行動、心情が分かる文に線を引き、出来事を確認する。 (スーホ…赤線 白馬…青線)	・全体で言葉の意味を確認する。 ・心情が分かる文に線を引くことで、叙述に基づいて想像を膨らませられるようにする。	◇人物の様子や動作を表す言葉に着目し、その働きを理解している。(発言・ワークシート)
	4 馬頭琴を作る、スーホの気持ちを想像し、ワークシートに書く。(尊)(表) ・「白馬は、なぜ自分を楽器にするように言ったのか」など児童の疑問を中心に話し合う。 ・実際に馬頭琴の音色を聴く。 ・ペアで確認後、全体で共有する。	・友達の見解を聞くだけでなく、感想や質問を伝えられるようにする。 ・「あいづち あいうえお」や「ハンドサイン」を活用できるようにする。 ・本物の馬頭琴を見せたり、馬頭琴の音色を聞かせたりして、より物語の世界に没入できるようにする。	◇場面の人物のしたことや話したことを想像して、理由や様子を読み取っている。(発言・ワークシート)
	5 スーホになりきって日記を書く。	・「スーホの日記」を記入	

		することによって、スーホの思いに寄り添うことができるようにする。	
まとめ	6 本時の振り返りをする。	・次時の流れを知り、興味をもって終われるようにする。	

(3) 板書計画

スーホの日記 ※馬頭琴をひくスーホ

・白馬が子馬だったところのことや、いつしよに草原をはしり回ったことを思い出して、白馬がぼくのことを見まもってくれているかんじがしました。

・ひつじかいたちが、ぼくの馬頭琴をきいてくれました。白馬は、音楽に生まれかわってもうつくしくて、みんな一生けんめい聞いていました。

※馬頭琴を作るスーホ

- ・もう白馬と生きていけないことがなしかつたけれど、なんだか白馬がそばにいてような気がしてきました。
- ・白馬はすがたをかえたけど、楽きになった白馬もぼくのたからもの。

挿絵

スーホの白い馬
めあて

ばとうきん
馬頭琴を作ったりひいたりする、スーホの気もちを考えよう。